

虫送り行事とは？

県指定無形文化財

「尾張の虫送り」

古来から火に集まる稲の害虫を焼き払い、五穀豊穡のために行われるものとされています。

厳しい自然との共生関係を保ちながら地域特有の生活様式を育ててきた矢田地区の、先祖伝来の行事です。

かつては多くの村で行われていましたが、現在、県内では、矢田

地区と稲沢市（旧中島郡祖父江町）の2地区のみに残り、昭和59年に「尾張の虫送り行事」として県指定無形民俗文化財に登録されました。

矢田地区では、「虫送り行事」として「おんか(ウンカ)送り」と「虫送り」が6月下旬と7月上旬に行われます。



五穀豊穰を願う

おんか送り

農作物に害を与える害虫を退治しようと、五穀豊穰を願って矢田八幡社でご祈祷し、「サネモリ人形」と「フウフの鳥」を高く掲げながら、ほら貝と太鼓の音にのって矢田川堤防沿いを練り歩き、最後に矢田川に流します。（現在は流さずに処理します）毎年6月頃に行われます。



◀ フウフの鳥



◀ サネモリ人形



五穀豊穰を願って

伝統を守り抜く

「サネモリ人形」と「フウフの鳥」はこうして作られる！



骨組み



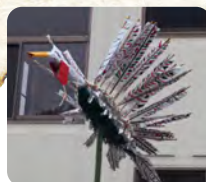
紙貼り



色付け・飾り



完成！



神事

藁と竹で作るたいまつは

一本一本手作り

火に集まる田の害虫を
退治して豊作を願う

虫送り

たいまつ（子供用2～3m・大人用4m）
に、矢田八幡社で貰い受けた火をつけて、太鼓・ほら貝の音を鳴らした後に
続いて矢田川沿いを歩き、火に集まる
田の害虫を退治して豊作を願う習わし
です。たいまつは竹の芯にワラ束を巻
いたもので、1本ずつ持ち、列を成して
練り歩きます。毎年7月頃に行われます。

参加
しました！

たいまつに火がつき

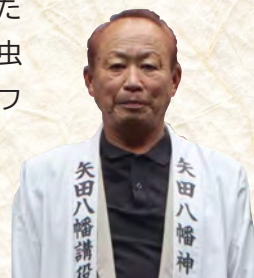
歩く行列は幻想的

【おんか(ウンカ)送り】

実盛が戦に負け逃げている時に農民などに殺害され、その恨みから害虫となりましたが、神鳥のフウフの鳥に食べられました。しかし、実盛の怒りは収まらず、稲作の害虫ウンカに変化して被害を発生させました。この稲作への被害を鎮めるために、実盛とフウフの鳥を奉り、神社奉納と田んぼ道を歩いたことが始まりといわれています。

【虫送り】

ウンカなどの害虫がたいまつに炎に集まり駆除できるとされています。
今回は、100人以上の人が参加しました。皆さんご協力ありがとうございました。



矢田八幡神社講総代
村上さん